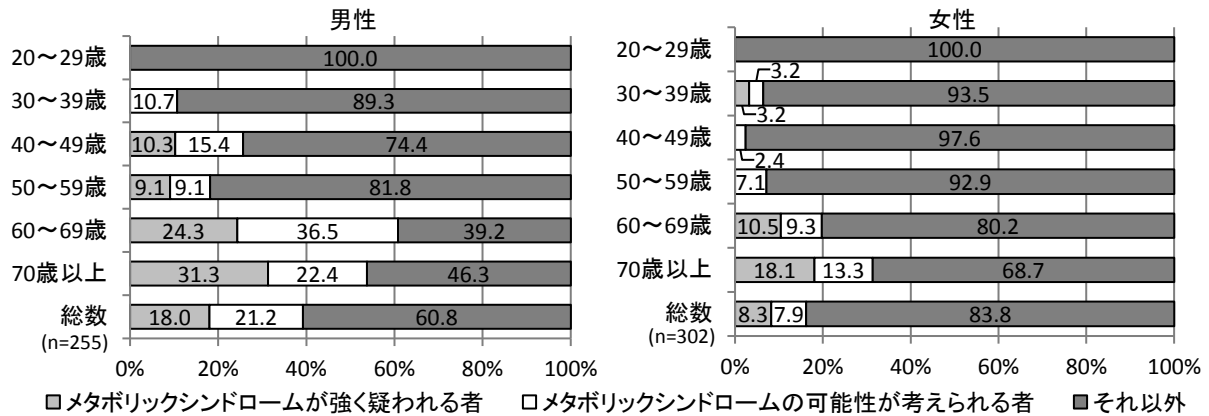


# 5 循環器疾患に関する状況

## 1) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の状況

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者は、男性 18.0%、女性 8.3%、可能性が考えられる者は、男性 21.2%、女性 7.9%である。男性では 40 歳代以降、女性では 60 歳代以降で増加する。

図 2-5-1 メタボリックシンドロームの状況（20 歳以上、性別・年齢階級別）

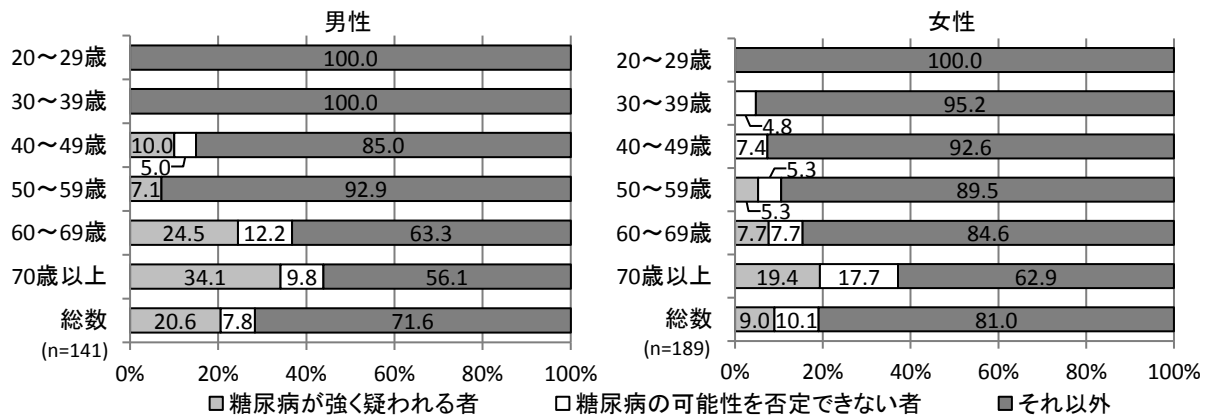


注) 本調査におけるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の定義は、平成 28 年国民健康・栄養調査における方法に準じており、国内 8 学会の定義と異なる。

## 2) 糖尿病の状況

糖尿病が強く疑われる者の割合は、男性 20.6%、女性 9.0%である。男性では 40 歳代以降で増加し、60 歳代以降でさらに増加する。女性では 50 歳代以降で増加する。

図 2-5-2 糖尿病が強く疑われる者及び可能性を否定できない者の割合（20 歳以上、性別・年齢階級別）

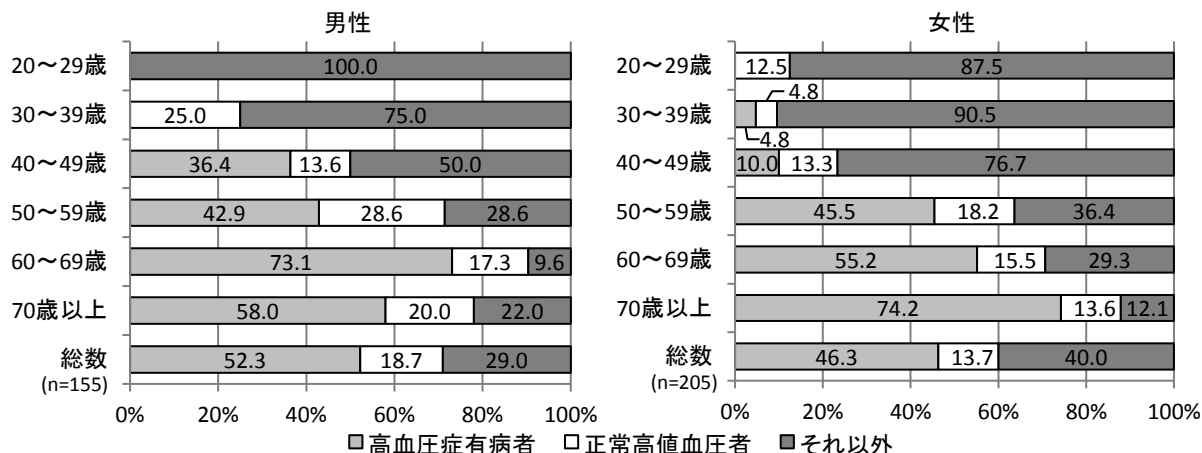


注) 本調査における糖尿病の分類は、以下のとおりである。  
 糖尿病が強く疑われる者：HbA1c を測定し、かつ身体状況調査に回答した者のうち、HbA1c が 6.5 以上、または現在、糖尿病治療の有無に「有」と回答した者。  
 糖尿病の可能性を否定できない者：HbA1c を測定し、かつ身体状況調査に回答した者のうち、HbA1c が 6.0 以上 6.5 未満で、「糖尿病が強く疑われる者」以外の者。  
 HbA1c は NGSP 値である。

### 3) 高血圧症の状況

高血圧症の有病者は、男性 52.3%、女性 46.3%である。年代が上がるほど増加傾向にある。

図 2-5-3 高血圧症有病者及び正常高血圧者の状況（20 歳以上、性別・年齢階級別）



注) 本調査における高血圧症の分類は、以下のとおりである。

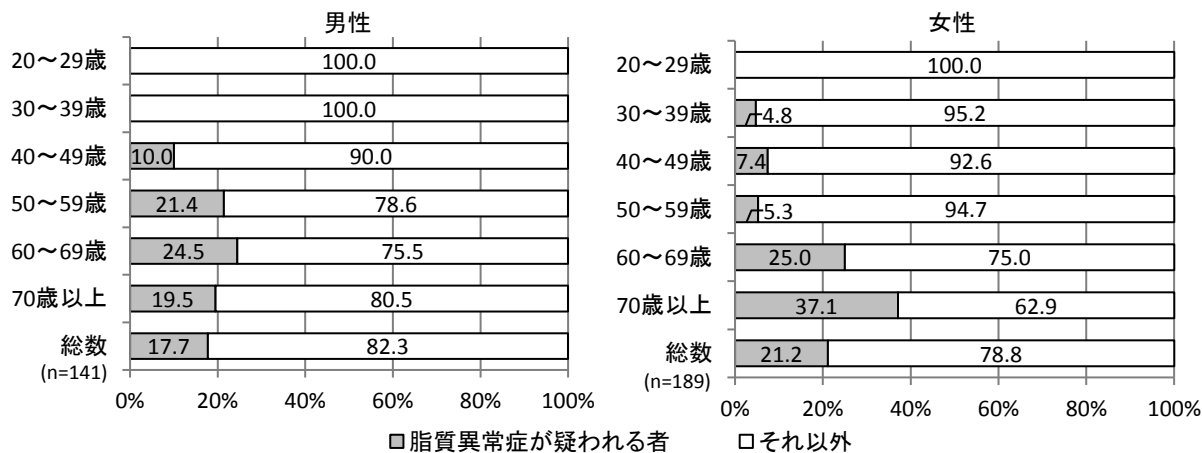
有病者：平成 28 年国民健康・栄養調査における方法（水銀血圧計による 2 回測定）により血圧測定を行い、かつ問診による「血圧を下げる薬」の使用状況に回答した者のうち、収縮期血圧 $\geq 140\text{mmHg}$ または拡張期血圧 $\geq 90\text{mmHg}$ であるか、または血圧を下げる薬服用者。

正常高血圧者：平成 28 年国民健康・栄養調査における方法（水銀血圧計による 2 回測定）により血圧測定を行い、かつ問診による「血圧を下げる薬」の使用状況に回答した者のうち、 $139\text{mmHg} >$  収縮期血圧 $\geq 130\text{mmHg}$ または  $90\text{mmHg} >$  拡張期血圧 $\geq 85\text{mmHg}$  であるもの（血圧を下げる薬服用者を除く）。

### 4) 脂質異常症の状況

脂質異常が疑われる者は、男性 17.7%、女性 21.2%である。男性では 40 歳代以降、女性では 30 歳代以降で脂質異常が見られ、年代が上がるほど増加する傾向にある。

図 2-5-4 脂質異常症が疑われる者の状況（採血時間によらず、20 歳以上、性別・年齢階級別）



注) 本調査における脂質異常症が疑われる者の定義は、HDL コレステロールを測定し、問診において「コレステロールを下げる薬」「中性脂肪（トリグリセライド）を下げる薬」の使用状況に回答した者のうち、HDL コレステロールが  $40\text{mg/dl}$  未満、またはコレステロールを下げる薬、中性脂肪（トリグリセライド）を下げる薬服用者である。